

しかし
ピラミッドには
圧倒された

エジプトは
1990年半ばに
「ナイルの虎」と
呼ばれ
発展のチャンスが
来たかに見えたが
街に入ると
人々は不満で
いっぱいなのが
伝わってきた



足止めを
くっている間
いろいろな人と
話をしたけれど
エジプトの役人に
関して困った体験を
持つ人が特に
ビジネスマンに多かった

第6章 イスラムの国からアジアへ



スーダンで私は
両親に電話した
だいたい
やせたのよ
しかし
何があっても
途中で帰ってきては
いけないと父に
言われていたので
私は先へ
進むしかなかった

父さんは
どう？
そう…



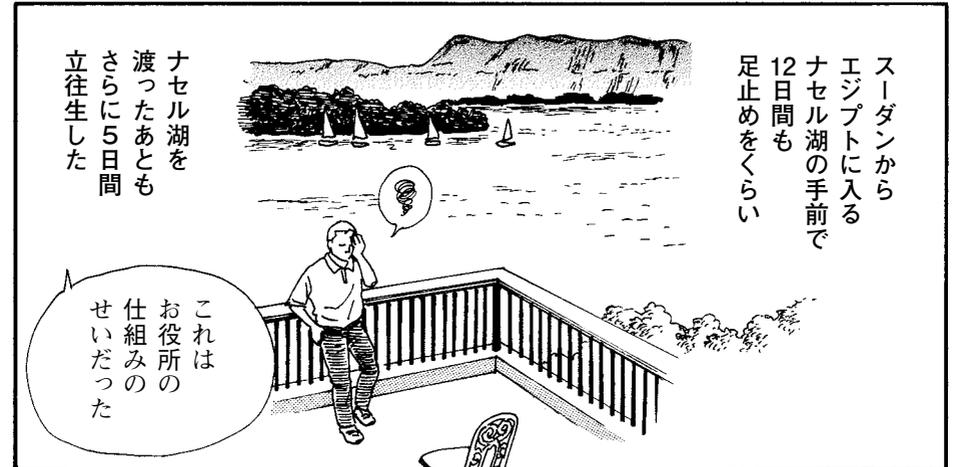
なんとか
サウジアラビアの
ビザが取れたので
私たちは
急いで出向いた
これは
何だ
ところが
救急箱から
ウオッカが
見つかった



すみません
これは消毒薬ですが
いりません！
捨ててください！

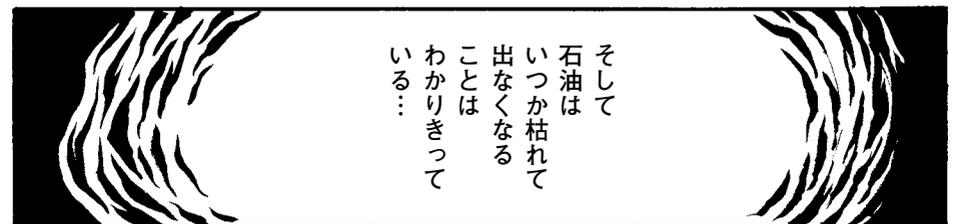
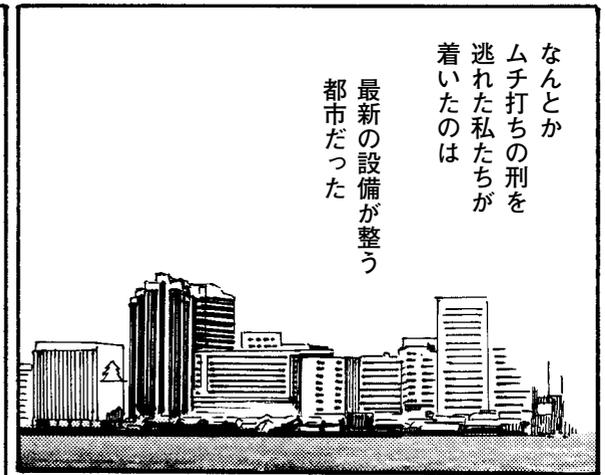
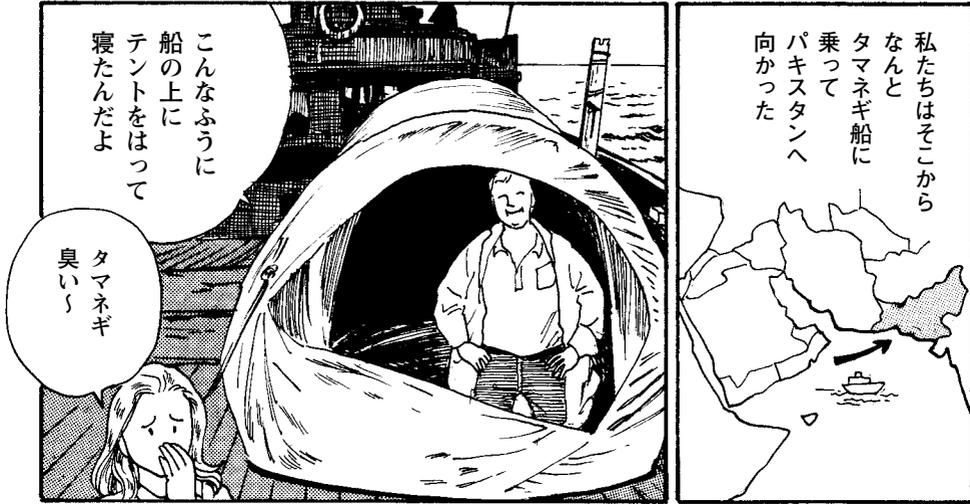


やばい
この国は
酒を持っているだけで
ムチ打ちの刑だ！

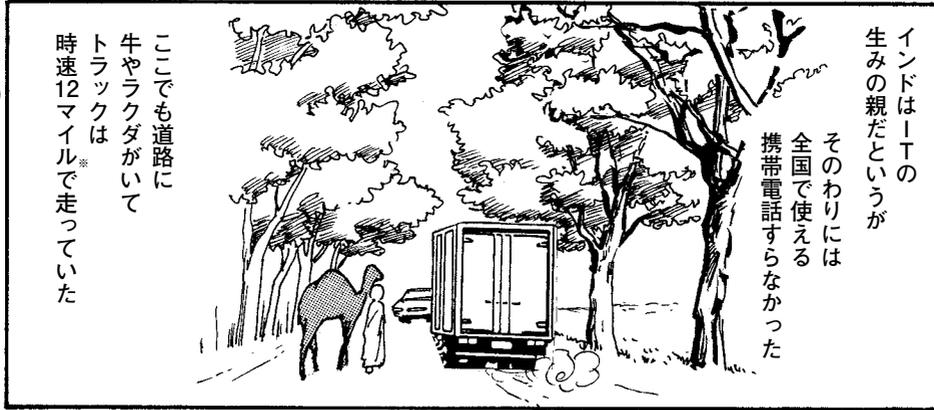


スーダンから
エジプトに入る
ナセル湖の手前で
12日間も
足止めをくらい
ナセル湖を
渡ったあとも
さらに5日間
立往生した

これは
お役所の
仕組みの
せいだった



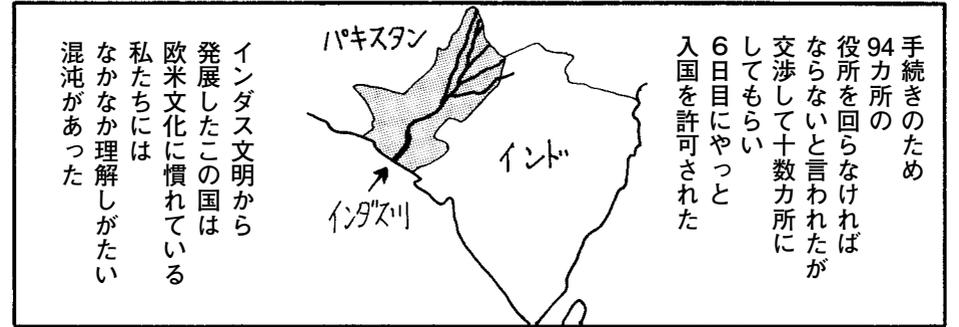
※時速約20キロ。



ここでも道路に
牛やラクダがいて
トラックは
時速12マイルで走っていた

インドはITの
生みの親だというのが

そのわりには
全国で使える
携帯電話すらなかった



手続きのため
94カ所の
役所を回らなければ
ならないと言われたが
交渉して十数カ所に
してもらい
6日目にやっと
入国を許可された

インダス文明から
発展したこの国は
欧米文化に慣れている
私たちには
なかなか理解しがたい
混沌があった

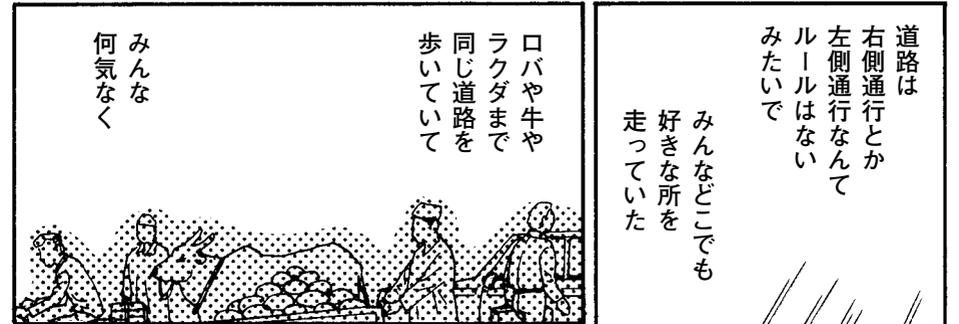


インド人って
世界的に
優秀な人いっぱい
いるんだけどなあ…

うん

教育面では
小学校を
卒業する子どもは
全体の4分の1にも
満たないという

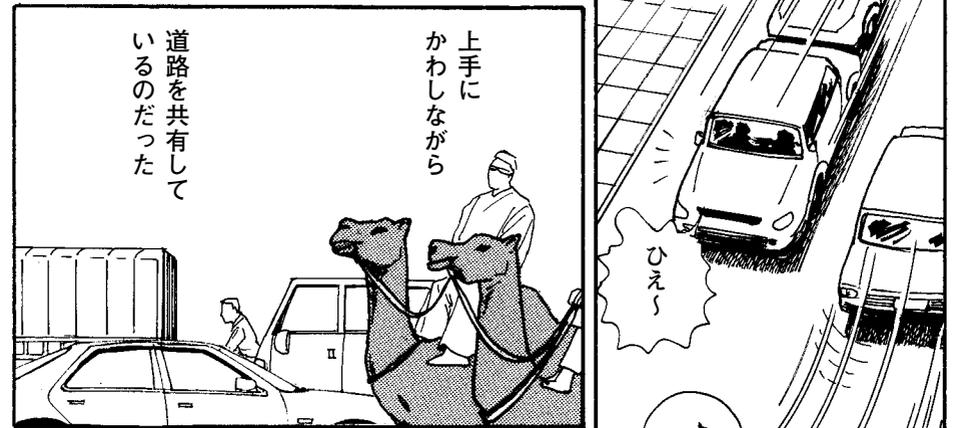
世界の競争に
耐えられる品質の
商品を作る意欲が
ないのでと
思ってしまう



道路は
右側通行とか
左側通行なんて
ルールはない
みたいで

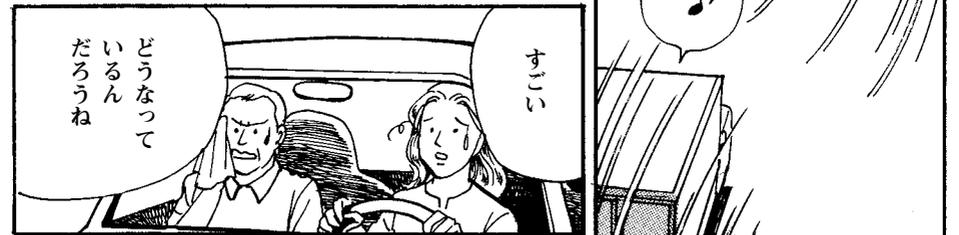
みんなどこでも
好きな所を
走っていた

ロバや牛や
ラクダまで
同じ道路を
歩いていて
みんな
何気なく

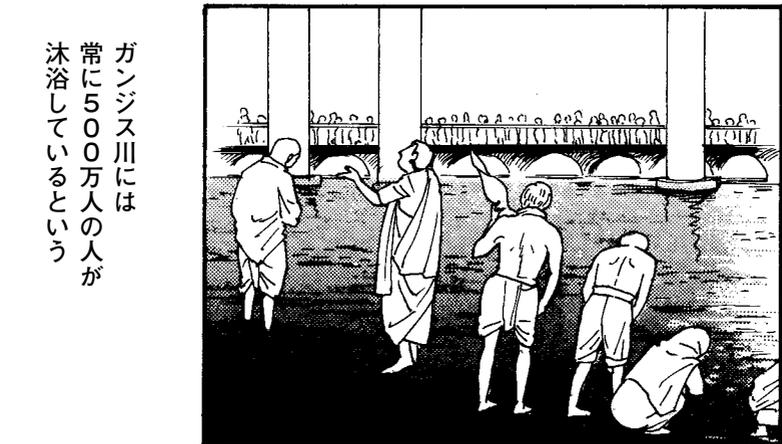


上手に
かわしながら
道路を共有して
いるのだった

ひえ

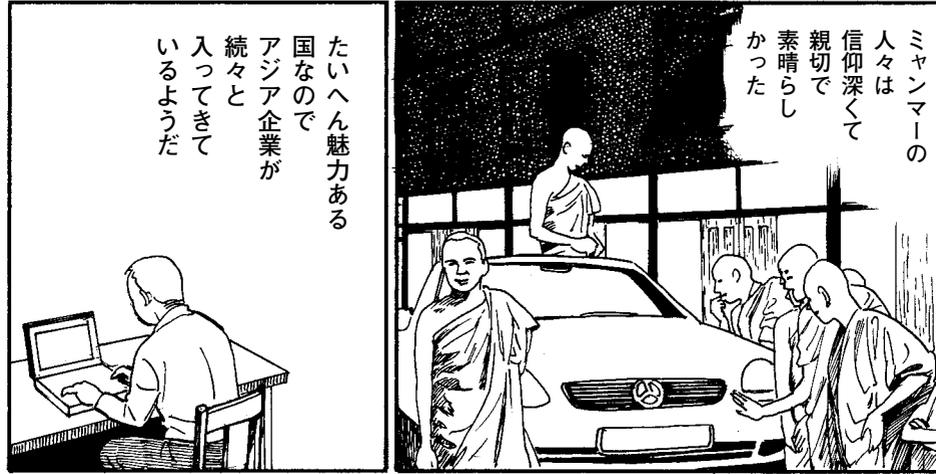


すごい
どうなって
いるん
だろうね



ガンジス川には
常に500万人の人が
沐浴しているという

ヒンズー教と
カースト制は今も
しっかり生きていて

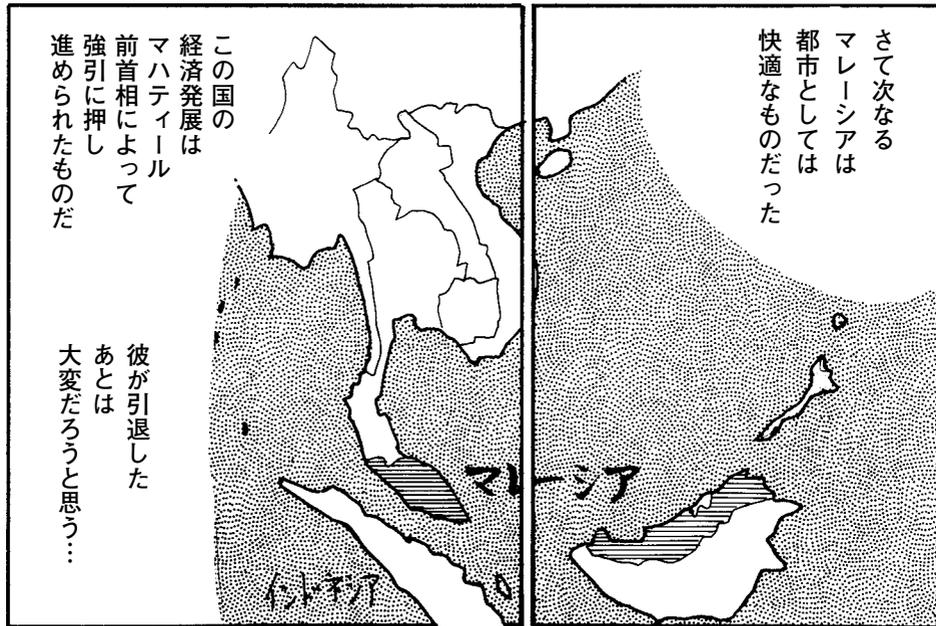


たいへん魅力ある
国なので
アジア企業が
続々と
入ってきて
いるようだ

ミャンマーの
人々は
信仰深くて
親切で
素晴らし
かった



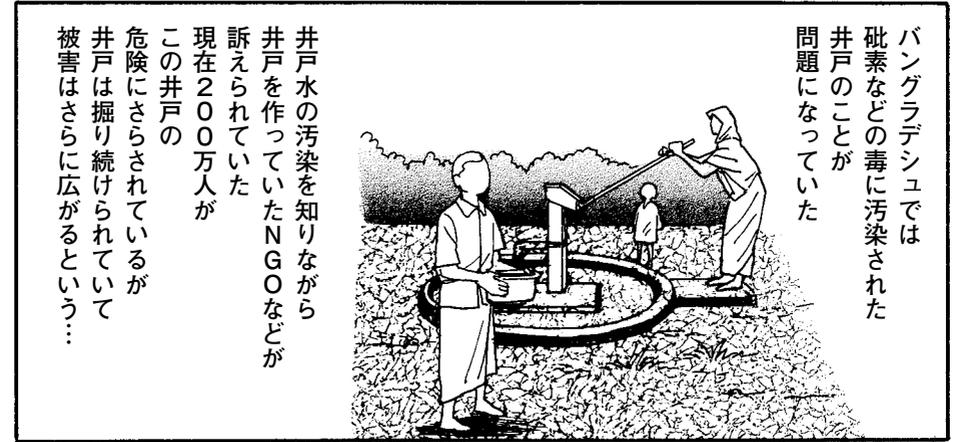
もし
これを
読んでいる
あなたが
起業家で
ミャンマーに
行く計画が
あるなら
急いだほうが
いいと
思いますよ



さて次なる
マレーシアは
都市としては
快適なものだった

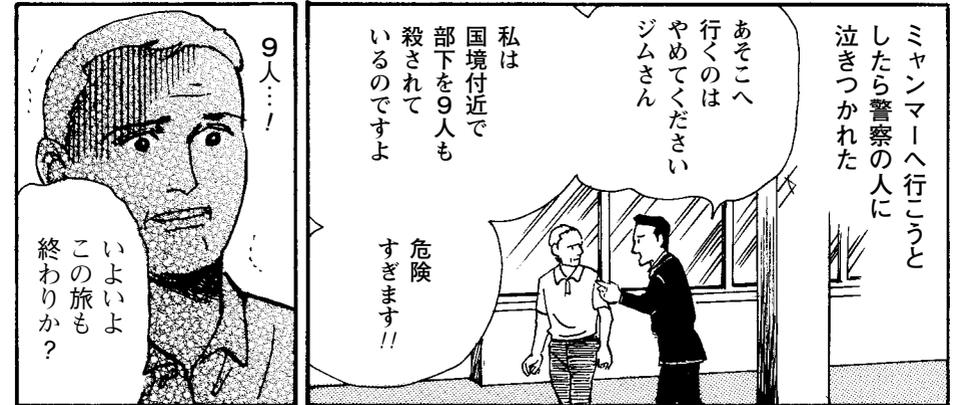
この国の
経済発展は
マハティール
前首相によって
強引に押し
進められたものだ

彼が引退した
あとは
大変だろうと思う...



バングラデシュでは
砒素などの毒に汚染された
井戸のことが
問題になっていた

井戸水の汚染を知りながら
井戸を作っていたNGOなどが
訴えられていた
現在200万人が
この井戸の
危険にさらされているが
井戸は掘り続けられていて
被害はさらに広がるといふ...



ミャンマーへ行こうと
したら警察の人に
泣きつかれた

あそこへ
行くのは
やめてください
ジムさん

私は
国境付近で
部下を9人も
殺されて
いるのですよ

危険
すぎます!!

いよいよ
この旅も
終わりか?

※マンプールでは武装蜂起が24回も起きていた。



しかし
恐怖におびえ
ながらも
そこへたどり
着いてみると...

ミャンマーの
国境警備隊は
大喜びしてくれた

よく来て
くれました!
よくここまで
無事だった!
良かったねえ

地元以外の方がこの国境を
車で越えるのは
第二次大戦以来初めての
出来事だったのだそうだ

おっっ